令和　６年　６月ぶらり街歩きのご案内

第６３回街歩き・六義園・古川庭園

日時　２０２４年　６月　１４日(金)

集合　　JR 駒込駅南口　１０：３０

コース　駒越駅～六義園～旧古川庭園～旧丹羽家住宅～JR 巣鴨駅(解散２時)

歩行時間　４Km　　３時間　歩数　約1万歩

参加費　　６００円　交通費･昼食･入館料自己負担　定員先着２０名

履物　　普段から履きなれている運動靴かスニーカー

持ち物　　飲物、タオル、マスクは持参ください。申し込みクラブまで　昼食　弁当持参

申し込み QR コード　　クラブ HP

平山台文化スポーツクラブ０４２－５０６－９９７９

六義園
江戸時代を代表する大名庭園の一つ。五代将軍・徳川綱吉の新任が扱った川越藩主・柳沢吉保により元禄１５（１７０２）築園された。和歌の趣味を基調とする繊細で温和な回遊式築山泉水庭園。明治時代に岩崎弥太郎の所有となり、昭和１３年に岩崎家より東京市（都）に寄付されました。
１９５３年（昭和２８年）に国の特別名勝に指定された。
六義園の名は、中国の詩の分類法（詩の義）ならった古今集の序にある和歌の分類の六体（そえ歌かぞえ歌、なずられ、たとえ歌、ただごと歌、いわい歌）に由来したものです。柳澤吉保の六義園記では「むぐさのその」と呼んでいましたが現代では漢音よみで「りくぎ園」と読みます。

旧古河庭園
本庭園は、もと明治の元勲・陸奥宗光の邸宅でしたが、宗光の次男が古河市兵衛の養子となったことから、 古河家の所有になりました。
英国ルネサンス風の洋館と洋風庭園は、鹿鳴館の設計を手がけたイギリス人ジョサイア・コンドルの設計になるもので、大正初期の庭園の原型をとどめる貴重な存在であり、京都の庭師・植治の手がけた日本庭園との 美しい調和を生み出しています。
新東京百景、名勝として国の文化財に指定されています。
洋風庭園には、約 100 種 200 株のバラが咲き誇り、春と秋にはバラの見頃に合わせて、バラフェスティバルを開催しています。

旧丹羽家住宅
旧丹羽家の蔵は、江戸時代から明治後期まで染井を代表する植木職人として活躍した丹羽家の八代目茂右衛門が、昭和 11 年、九代目の結婚の際にもともと木造土蔵造りだった蔵を鉄筋コンクリート造りに建て直したものです。築後 70 年以上が経過していますが保存状態は良く、昭和初期の建築当時の姿を残していることから、平成 19 年 12 月に国の登録有形文化財建造物として登録されました。
門は、腕木と呼ばれる梁で屋根を支える腕木門と呼ばれる形式です。正確な建築年代は不明ですが、修理の記録等から江戸時代後期に建てられたものと推定されています。現在も植木の里・駒込の歴史を物語るシンボル的存在として地域の方々に親しまれています。平成 19 年 8 月に豊島区指定有形文化財となります